



すくくと立つ白樺の木と
ブルーサルビアの花

十勝ヒルズ「スカイミラー」
撮影:久保怜子
(あけぼの北海道)
2017.9.6

全国のあけぼの会のみなさん、レター会員のみなさん、病院会員の先生がた、こんにちは!

●お元気にお暮らしでしょうか? 会員が減ってはいますが、それでも全国津々浦々の2500を越える会員さんと150を超える先生がたにこのレターが届くと思うと、わくわくします。

●上の写真、パッと見て、浮かんだタイトルが「希望・未来」。がん患者はともすると「希望」を失って、こういう言葉があったことすら忘れてしまって、目先の不安に押しつぶされそうになる。そして、代わりに、失望、ひどくなると絶望、そんな言葉に支配されがち、イヤですね。今、自分に問うて見ましょう。「果たして、私は希望を持って生きているか?」

●みなさんに「希望を持って生きてほしい」どんなときも、どんな状態にあっても、力になれる会。これが私の願い、全国のあけぼの会代表さんたちの願い。「Akebono News 144」の梅田さん、遂に逝った。終わり近いとき、死を受けとめている心の内を電話で話してくれた。「あなたは立派だった」と彼女の一生を讃えて、お別れ、とても清しい別れだった。

●さて、やっとマスコミも取り上げ始めた怪しいがん治療、今回はMKさんが体験をありたく告白してくれました。藁にもすがる患者を喰いものにする人道外れの似非医者はオレオレ詐欺よりも悪質、命を弄んでいるから。

●あけぼの会はこんな被害者を減らしたい。それには声を大に事実を世に知らしめるしかない。反旗を翻したMKさんの勇気、エライ!

●11月熱海、締切り:10月20日
きっと来て! 待ってますよ。(ワット)

CONTENTS

会長あいさつ	●ワット隆子	1
日本乳がん患者会会議(JBCPC)第3報		2
JBCPCに参加します	●竹内聡子	4
熱海でお待ちしています	●星野希代絵	5
「九州大会2017」より	●光山昌珠先生	6
私は何故「遺伝子治療」に走ったのか	●M・K	16
訴訟にしてはどうか	●勝俣範之先生	20
がん医療向上に患者ができること	●宮本絵実	21
学びと実践のコミュニティ	●宇治川洋子	22
また命拾い	●藤平初江	23
こんな活動しています		24
「再発治療のこれから」	「PARP 阻害薬」	28
各県の活動予定(2017年10月~12月)		32